

薬物乱用防止教室 7月12日(水)



今年3月、長崎県内の高校生が大麻取締法違反容疑で逮捕・摘発されました。再発防止に向け様々な研修会が実施されたり、県内における普及啓発活動が頻繁に行われています。そのようなことを受け、今年度は2年生の生活委員が中心になり薬物乱用防止教室を企画しました。



メディアで報道されるニュースではいまいち実感がわからない。そのようなことを感じて

いる高校生の視点で、どれだけ身近に薬物がせまっているのか、そのことを考えてもらおうということで講話が行われました。芸能人薬物事件から今回の県内の事例を含め、生徒が問いかけ、生徒たちが考えることでこれまで学んできたことを振り返り、さらに深めることができる良い時間になったと思います。今後同じようなことが繰り返されないよう、「しない・させない」ということを意識し、日々生活して欲しいと思いました。生徒の感想文を紹介します。

○今日の薬物乱用防止教室は、薬物について生徒全員で楽しく、しっかりと学べたと思います。ちょっとした遊び心でインターネットから薬物を買ってしまったり、手を付けてしまったりすると、もう止められないことの恐ろしさを改めて感じました。最近、私たちの近くでも薬物を使用して捕まった高校生たちの話が出ていて、怖いなと感じました。薬物について一線を越えるかどうか「自分次第」という言葉は深く刺さりました。自分のしたこと、することに責任を持って行動していこうと思いました。(3年女子)

○私たちは、自分が知らないことに対し少し興味がある年代で、「このくらい大丈夫」「バレなきゃいい」とそんな気持ちで手を出したら、もう手遅れだと分かりました。薬物だけを特別視するのではなく、家にあるお酒とか越えてはいけない一線はどこにでもあるということを意識して生活しないといけないと感じ、改めて身の引き締まる思いで今回の集会を聞かせてもらいました。(2年男子)



改めて身の引き締まる思いで今回の集会を聞かせてもらいました。(2年男子)

○巧妙な手口で乱用を促す人に引っかからないための知識を持ち、それに気付けるように常に考えて行動したいと思う。でも、やはり乱用を始めるきっかけは自分を律する気持ちのちょっとした緩みが原因であることも多いと思った。一度でも薬物乱用してしまうと、やめたほうがいいかもしれないなどの意識があっても、それと関係なく乱用を続けてしまうようなので、その“一度”をちゃんと自分で抑えることができるかが大切だと思います。よく考えさせられた集会でした。生活委員の人たちはえらいと思います。(3年女子)